

文教経済 委員会

調査項目 鳥獣害対策

～ 中間報告 ～

◆野生動物との共存は可能か

現状の把握

◎被害額、捕獲頭数の現状 (グラフ参照)

- ・被害面積 219 ha、被害額は 8875 万円
- ・捕獲頭数は 1826 頭 (対前年 629 増)
- ・猿、鹿の被害が増加

◎猟友会の現状

- ・銃器による狩猟免許者 131 名、うち捕獲隊員 108 名。平均年齢 61 才

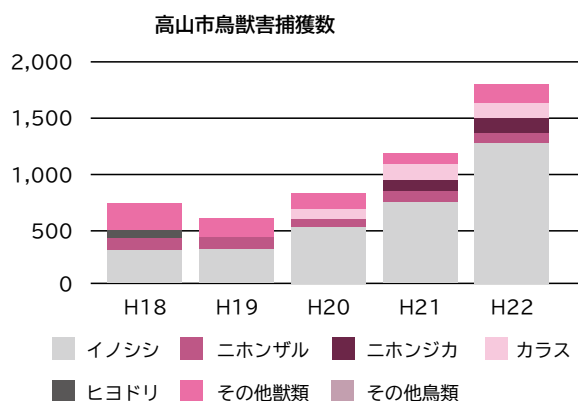
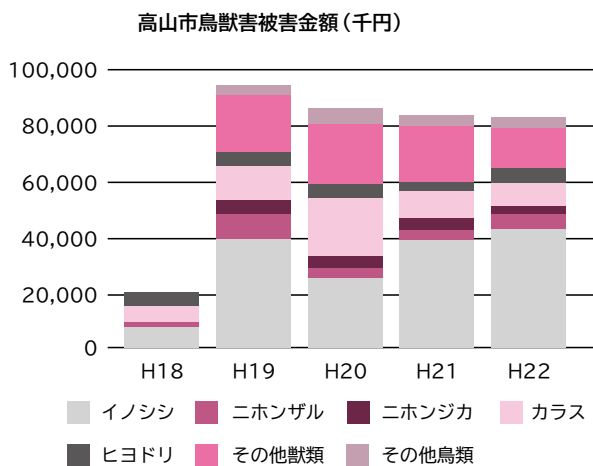
◎鳥獣害防止対策

- ・猟友会員を中心に捕獲業務を委託 (4020 万円)
- ・本年度作成の捕獲檻はイノシシ用 100 台、サル用 30 台
- ・モンキードッグ育成訓練費用を全額助成

◎農作物獣害防止対策 (電気柵等の設置助成)

- ・面積に応じ設置費用の 1/2、3/4 を助成 (市単独)、国庫事業を実施する場合

- ・は資材費の 3/4 を助成
- ◎耕作放棄地対策
 - ・耕作放棄地マップを作成し、耕作放棄地再生計画で事業を実施
- ◎県の方針
 - ・ニホンジカ対策として今狩猟期間から捕獲制限を一日雄は一頭、雌は無制限に
- ◎本年度予算
 - ・1億1600万円 (昨年7300万円)



現地調査

9月9日、久々野地区の2果樹園で実施

◎ワイヤーメッシュ柵等の設置状況視察

- ・高さ1mの柵の設置

- ・ニホンジカ対策でエスター線架線により2.4mの高さに

◎食害の状況調査

- ・苗木や若芽の被害等確認

- ・関係者との意見交換を実施

課題整理と今後の対応策

◎獣害防止対策は狩猟者捕獲隊員の確保と育成が必要

- ・狩猟免許の取得促進と、技能講習が出来る射撃場の整備が急務

◎個体数の増加から広大な面積への対応を迫られている。

- ・地域ぐるみで対応する為、電柵設置等への助成拡大を

- ・地域間の連携による進入防止柵の徹底

- ・捕獲や分布域把握による個体数の抑制

- ・人と動物の緩衝地帯

の整備等、生息環境の整備

◎耕作放棄地対策と連動しなければ効果は上がらない。

- ・耕作放棄者への指導勧告と共に、農地の集積や農業以外の利用も検討必要

- ・農業後継者づくり、新規就農者支援等、助成策を検証する必要がある。
- ・山の管理も大切な要素

これらを踏まえ、県、市への要望と、市の予算措置等について今後委員会として詰めの作業に入る予定です。



久々野地区での獣害調査